



## 「100歳になっても弱らない信仰」

～どんなことがあっても神を信じ続ける～

「少しも疑うことなく、ひたすら神を信じ、その確信と信頼はますます強くなっていった。その約束が実現する前から、約束が叶うことを感謝し、神を讃えるほどだった。神がした約束ならどんなことでも実現すると、堅く信じていたのだ。」ローマ人への手紙4章20・21節【アライヴ訳】

先週は西日本での最大級の台風の直後に、北海道の中心部を襲う大きな地震が起きました。大阪地域での台風の被害も甚大なものだったのに、それを上回るような北海道での地震が立て続けに起こり、目まぐるしい自然の力に圧倒させられています。

私たちの人生でも自分の力ではどうすることもできないような出来事に押しつぶされそうになることが起こります。イエス様もヨハネ福音書16章でも語られました。アライヴ訳です。

「お前たちも、心配せずに、安心するんだ。こんなにも、念には念を入れて話したのは、そのためなのだから。確かに、この世では苦難や悲しいことが山ほどある。でも、勇気を出せ！わたしはすでに世に勝ったのだ!!!」【ヨハネ16:33】

世界の唯一神教と言われるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の父祖と呼ばれる存在が本日の主人公のアブラハムです。彼は「信仰の父」と言われます。もちろん人類の祖先は彼ではなく、最初の人アダムですが、どうしてアブラハムがユダヤ人の父祖となったのでしょうか？

それは彼が大いなる信仰のチャレンジにパスしたからです。まずは、神の御声に従って、自分の慣れ親しんだ故郷を離れる決断をし、長らく旅をして、全く知らない荒れ果てた地に住むことを決断したこと。そして、高齢になり、子どもがいなかったにも関わらず、自分の子孫にその地を約束の地として与えられることを信じたこと。そして、実際に100歳の時にわが子をその胸に抱くこととなる。しかし、イサクが成長した頃、アブラハムを導き続けて来た神は、アブラハムの最愛の子をいけにえとして捧げるように要求した。それに対して、アブラハムは一つの文句も言わず、ただひたすら黙々と、そのいけにえを捧げるモリヤの山までイサクと共に出かけ、そこで、何のためらいもなく、わが子を縛って、薪の上に横たえた。そして、刃物を振り上げてイサクをその手にかけようとした。しかし、そこで、主はアブラハムに天使を遣わしておっしゃいました。「待ちなさい。子供を殺してはいけな。あなたは、大事な最愛の一人子をも、わたしのために惜しまずさげた。どんなにわたしを恐れかしこんでいるか、よく分った」と。

これが「信仰の父」アブラハムが通過した信仰のテストでした。どんなことがあったとしても、神に信頼し、信じ続けるという信仰の姿勢でした。彼の人生そのもの、彼の考え方そのものが神と共にあったということです。いつも自分自身が神の御前にいるということを実感し、その御前では自分のすべてが明らかであり、正直であることを自覚していました。だからこそ、彼はすべての人の信仰のお手本として、モデルとして聖書に描かれているのです。